

令和6年11月14日

会津美里町議会議長 大竹 惣 様

総務厚生常任委員会委員長 長嶺 一也



行政視察研修報告書

総務厚生常任委員会行政視察研修について、下記のとおり報告します。

記

1 視察日程 令和6年10月30日（水）～11月1日（金）

2 視 察 先 ◆長野県宮田町

・子育て支援施策

・移住支援施策

◆群馬県嬭恋村

・移住コーディネーターによる移住相談対応

・空き家対策

・子育て支援施策

3 報告事項

（1）長野県宮田村

① 特筆できる村の基本データほか

・住みたい田舎ベストランキング1位（宝島社：田舎暮らしの本2024 村の部 子育て世代部門）

・高齢化率 29.4%（2024.6.1現在） 〈本町41.1%（2023.9.1現在）〉

・コンパクトビレッジ 生活圏が半径約2.5km、商業施設、医療機関、銀行、ホームセンター等の施設がそろっており、便利で快適な生活を送ることができる。

・子育て支援日本一を目指す元気な村

若者世代・子育て世代が多く、子育て支援が充実。

宮田村輝く子育て応援条例を平成24年に策定し、10年以上子育て支援の施策に取り組んできた。

- ・企業が247社 雇用の受け皿がある。
- ・中央アルプスと南アルプスが間近に見える自然豊かな景観

観光客が多く、豊かな自然を求めて移住する人も多い。

- ・村の地理的立地条件がよい

首都圏や中京圏、北信越地域へのアクセスが便利である。雪は少ない。

② 子育て支援施策について

本町に比べて手厚い支援策は次のとおり

- ・誕生祝い金 第1子（6万円）、第2子（8万円）、第3子（13万円）

第4子（20万円）、第5子以降（50万円）

- ・保育料無料（給食費も無償化）
- ・小中学校 通学用かばんプレゼント、給食費補助（約3か月分1.5万円）
- ・高校生の通学費補助 年3.5万円
- ・ふるさと就業応援金 5万円
- ・保育園でALTによる英会話教室 年5回程度
- ・中学生の海外派遣 ソウル、年18名
- ・うめっこらんど 平成26年3月に老朽化した保育園を取り壊し、ファミサポセンター、遊ゆう広場（子育て支援拠点事業）、児童館、学童保育の4つの機能を持った施設を整備。
- ・見やすくわかりやすい子育て支援ガイドブック（リーフレット）

時系列にどのような支援があるかがまとめられている。



③ 移住支援施策について

本町に比べて手厚い支援策等は次のとおり

- ・ 移住体験住宅の運用 空き家を村が改修し、希望者へ1泊から最大30泊提供（1日1000円）、予約が埋まっている状況。
- ・ コンパクトビレッジのため住みやすい環境が整っている。
- ・ 247企業（主に製造業）が立地しており、雇用の場が確保されている。

ただし、今後の企業誘致は未定。

- ・ 各種セミナー、単独移住セミナー等の開催（年10回程度）
- ・ 都市圏からのアクセスが便利

東京まで車で約3時間、新宿宮田間の高速バスは1日33往復、名古屋、大阪、横浜間の高速バスもある。

- ・ 高速バスに村PRのラッピング
- ・ 豊かな自然を求めて来る移住者も多い。
- ・ 宮田に住もう推進協議会の設置（平成27年度）
- ・ 冬期間は寒いが生活圏の積雪はほとんどない。

■本町には…

- ・ 移住者支援、子育て支援及び雇用の創出は3点セットで複合的に連携して実施しなければ効果は半減する。担当課は横の連携を密にして総合的に取り組む必要がある。
- ・ 空き家を活用した移住体験ができる環境整備を検討する必要がある。
- ・ 同僚議員の一般質問で工業団地の新規造成は？の答弁は、考えていないとのことであったが、やはり、人を呼ぶには、企業誘致が必要である。
- ・ 子育て支援について、村担当者より、本町の施策は手厚いと評価をいただいたところであるが、子育て支援拠点事業等の情報発信を行って利用者の拡大を図るべきである。
- ・ ネウボラガイドはこの年齢に受けられる支援を時系列にわかりやすくまとめる必要がある。

※その他 議会のタブレットは2021年12月より導入：使用ソフトは「モアノート」

(2) 群馬県嬭恋村

① 特筆できる村の基本データほか

- ・住みたい田舎ベストランキング1位（宝島社：田舎暮らしの本2024 村の部 若者世代・単身者部門、シニア世代部門）
- ・高齢化率 37.3%（2024.6.1現在）
- ・スキー場、温泉、浅間山をベースにしたリゾート地
- ・高原野菜の産地でシニア世代が活躍
- ・リゾート地における空き家別荘が数多く存在

② 移住コーディネーターによる移住相談対応について

- ・「集落支援員」という職名で活動。移住者2名と地元の方2名の計4名。
- ・移住前後で手厚く親身に対応している。
- ・移住前の相談（平地と山村地域での生活の違い、空き家バンク等による物件案内、移住後の定期的な訪問、広報紙の配布、困りごとの相談など
- ・単身移住者は観光業や農業実習生。シニア世代はセカンドライフを楽しむ目的で別荘地。
- ・別荘地は移住者の大きな受け皿になっており、地域に溶け込まなくてもマイペースで生活できると考えている移住者が多い。
- ・U I J ターン就職向けに「地方就職支援金支給制度」をR6.10.1より実施。終活に要した交通費を上限6000円支給（国県制度に準拠）
- ・冬期間の移住体験を実施。移住パンフレットには冬期生活の注意事項等を包み隠さず詳細に説明。
- ・会津美里町赤沢地区の生活教科書は参考になったとのこと。
- ・農業従事者のうち、点々と仕事に来る外国人が多い。

▲地域コミュニティーを維持するための移住者を増やすことが課題と考えている。

- ・移住者の推移

	令和3年度	令和4年度	令和5年度

移住者数	1 8 1	1 9 6	1 8 6
平均年齢	4 5	4 1	4 4
相談件数	1 1 0	1 5 4	1 5 0

③ 空き家対策について

- ・定住促進及び住環境の向上を図るため、空き家・空き地バンク登録物件購入費に対して補助（補助率1/10、上限20万円）。住居改修補助（補助率2/10、上限20万円）
- ・大手不動産会社（アットホーム・大久ホーム）と連携した別荘紹介の反響が大きい。
- ・村民よりタダでいいから持ち家を村で引き取ってくれないかと言われたことがあるが、財産取得は慎重に行っている（境界、登記等の問題が残っている場合があるため。）
- ・空き家・空き地バンクの実績

登録数 1 3 2 件 成約数 6 2 件 成約率 54. 9%

④ 子育て支援施策について

- ・子育てカレンダー 宮田村同様、支援内容・健診・予防注射等の時期が時系列に見やすくまとめられている。
- ・出産応援ギフト 5 万円、 子育て応援ギフト 5 万円
- ・奨学金

高校生 月額 3 万円×12月×3 年間＝108万円（最大）返済 6 年間

大学生 月額 5 万円×12月×4年間＝240万円（最大） //

※村内医療機関に就職したときは、免除規定がある。

- ・学校給食費の無償化（所管外調査事項）

開始年度 平成28年度

対象者（R 5）幼稚園児155人 小学生339人 中学生189人

負担額（R 5）食材費 5, 6 0 0 万円 財源はふるさと納税

- ・ほめ方・叱り方講座、子どもサポート事業、がん教育、思春期講演会、こころの講演会など、数多くの教育を実施している。
- ・今後の課題は、子ども家庭センターへの移行であり、切れ目のない子育て支援と地域全体での子育て支援体制の構築と考えていること。

■本町には…

- ・子ども家庭センターは令和7年4月1日設置予定で、町子ども・子育て会議の中で検討中であるが、子育て支援は、金銭的支援に止まらず、子どもの健全育成にも力を入れて推進する必要がある。

- ・移住定住ガイドブックには、赤沢地区の教科書のように、良いこともそうでないこともちゃんと伝える内容にする必要がある。

例 冬期間の生活、生活費（光熱水費）の話、自治会費、地区行事、人足、ごみ出し、資源ごみ出し、消防団、自治区運営、相談体制、など

- ・移住者目線でSNS等による移住や美里の日々の情報発信をお願いしてはどうか。移住希望者に直接響くものとする。

- ・労働者の確保のため、外国人移住者も促進する必要がある。

令和6年11月4日

会津美里町議会議長 大竹 惣 様

総務厚生常任委員会 委員 村松 尚

印

行政視察研修報告書

総務厚生常任委員会行政視察研修について、下記のとおり報告します。

記

1 視察日程 令和6年10月30日(水)～11月1日(金)

2 視察・見学先 ◆長野県宮田村

- ・子育て支援施策
- ・移住支援施策

◆群馬県嬭恋村

- ・移住コーディネーターによる移住相談対応
- ・空家対策
- ・子育て支援施策

3 報告事項

【長野県・宮田村】

生活圏が半径約2.5kmに人口8,735人と、非常にコンパクトな村であるが、上場企業をはじめとした村内企業数は240社以上と両隣を市に挟まれながらも、住みたい田舎ランキング1位となった事は説明の中からも理解ができた。

村での子育て支援をカラー刷り冊子として配布しており、これは見やすく内容も充実した施策であると感じる。個人的には、グローバル化が進む中において中学2年生を対象にした海外派遣事業をおこなっている事、その始まりから今日までの一連の流れを伺う事が出来た事は、新たな教育環境整備や子育て支援制度としての視点を感じる事ができた。派遣事業の旅費について、村が全額負担している点は本町では財政上の課題もあると考察するが『子供達への投資』無くして町の未来は無いと考える点からも、このような事業は必要と考える。

また、受け入れ先の韓国サンミョン中学校からも、夏季休み中にホームステイを受け入れている事から、中学校だけではなく地域住民に対して異文化に触れる機会がある事は、未来を見据えた波及効果が期待できると考察する。

移住政策については、説明を受ける中で理解はできた。視察の中で感じた事は、軽トラックの走行が非常に少なかった。これは耕地面積が田耕地面積、畑耕地面積を合計しても395haであり、基幹産業となっていないことがあげられる。遊休農地3ha以下の取り組みに対しても現在0%となっており、通称宮田方式のシステムが機能している表れではないかと感じた。

未来創造課が設置され13年が経過しているが、多岐にわたり大きな役割を果たしている事は説明の中から伺う事ができた。町営住宅の入居に対しても抽選になる事、宅地が不足している事等からも、住民の平均年収は本町より大きなものである事は考察できた。しかし約60件の空き家もある事も説明を受けた。現在、地元出身の大学卒業生の帰村を目標50%を目指しているとの事だが、目標値に近い数値まで来ている点。地元出身女性が都市部で子育てする中で40%~50%が帰村してきている点からも、コンパクトビレッジでありながら、住民から移住者まで人気が出る理由が理解できた。

最後に気候については、ほとんど雪が降らない事からも、移住には地域の気候も関係するのではないかと考察する。

【群馬県・嬭恋村】

関東ローム層の恩恵を受け、キャベツ栽培が盛んな嬭恋村。多くのキャベツ畑を車中から視察でき、土地の形状、土の違い、農耕器具の違いを見る事ができた。

移住相談員4名体制（地元2名移住者2名）での移住前相談や移住後の相談、定期的な訪問などの困りごと相談受付をおこなっている事などの一連の説明を受けた。

移住コーディネーターの役割などについては、本町と大きな違いがないと感じたが「移住者のスズメ」という移住者に対する情報冊子については、冬に対するデメリットに対しても真摯に公表し、それに対する費用についても説明をしている事は移住者にとっても参考になると感じた。

個人的に気になった事は、令和6年9月1日現在の人口が9,549人であり世帯数4,535世帯と国税調査発表の令和2年では人口8,850人、世帯数3,532世帯となっており、人口において約700人、世帯数において約1,000世帯の増加があった事が気になった。

質疑において、理由を伺ったところ外国人技能研修移住者の増加により、人口及び世帯数が増加したとの説明を受けた。個人的考察であるが、就労先がホテルや農業等、多岐にわたる事からも、外国人の技能実習生や雇用に関する新たな移住者支援制度も調査研究をおこなわなければいけないと感じる。東南アジアの方が多いと説明はあったが、ヨーロッパからの移住者の若干であるがいる事も説明を受けた。

外国人移住者が多い事から、嬭恋村国際交流協会が昨年8月に設立され、外国人移住者と住民の間で様々な交流をはじめている事、イタリアのボンペイ市と友好都市となっている事からも、日頃より身近に異文化を感じる事ができる事は子供たちにとっても、語学や考え方を勉強できる点から良いのではないかと考察する。

子育て支援の視点でのバス通学について質疑させて頂いたが、距離については本町を違いないとの説明であったが、バスの委託業務費用が年1億円程度掛かり、大変であるとの説明があった。

【その他】最後に意見交換を終え、村役場1Fを見ると外国人の方が3名、順番待ちをしていた。

異国に住むということは、決して楽な話ではないし、心細い事もあるのだろう。きっと外国人が数名で一緒に行動するのは、そのような気持ちからかもしれないと感じる。

じた。

バスに乗る前に、ごみ袋の有料化について話を聞いた。やはり広域での運営方法をとっているそうだが、気になったのは有料のごみ袋を納品する業者が村内事業者なのかどうかの点であった。結果、村外事業者であるとの話であったが、やはり雇用や納税の観点からも、将来的にごみ袋有料化の場合には、そのような点に留意をしなければいけない。

※ 今回の行政視察については、2ヶ所であったが委員同士の話では、しっかりと調査するには良いのではないかとの話もあった。研修先の生活環境や走行車種や状況、関東ローム層の土質などは車中からも見る事ができたが、歩きながら視察先の集落形成等を視察できる時間があれば更に有意義な行政視察になると考察する

以上を報告いたします

令和6年11月12日

会津美里町議会議長 大竹 惣 様

総務厚生常任委員会 委員 星

次

印

行政視察研修報告書

総務厚生常任委員会行政視察研修について、下記のとおり報告します。

記

1 視察日程 令和6年10月30日（水）～ 11月1日（金）

2 視察・見学先 ◆長野県宮田村

- ・子育て支援施策
- ・移住支援施策

◆群馬県嬭恋村

- ・移住コーディネーターによる移住相談対応
- ・空家対策
- ・子育て支援施策

3 報告事項

宮田村は、平成の大合併でも自立の選択をして、現在に至っています。

村の面積は、東西11キロ、南北3、8キロメートルのコンパクトシティです。

令和5年10月1日現在の人口は、8,805人、世帯数は3,559戸

宮田村は、住みたい田舎ベストランキング1位です。

◆子育て支援施策について

長野県宮田村は子育て応援条例を平成24年3月に制定しています。

事業の種類としては、誕生祝金、保育料助成、輝く子育て応援金、子育てファミリー転入奨励金、小中学校入学祝金、高等学校入学祝金、小中学校通学靴支給、小中学校給食費補助、フレフレふるさと18きっぷ助成事業があります。詳細については条例に記載されています。特に参考となったのは、保育料と給食費も無償化、保育園でALTによる英会話実施、小・中・高校入学祝い金（小学1万、中学3万、高校5万円支給）小・中学校通学用かばんプレゼント、小・中学校給食費補助（学校給食地元産食材65%以上使用）高校生通学補助、就職祝い金（5万円）、奨学金補助制度（最大100万円/5年間）、高校卒業まで医療費無料です。

子育て支援センターにおいて、乳幼児から18歳まで利用しています。

未満時は20時間無料となっています。運営経費は年間2千万円でその半分は国庫

・県補助金です。 **手厚い子育て支援が行われています。**

◆移住支援施策について

二つの日本アルプスが見える自然が素晴らしい景観と生活圏が半径約2.5km、お酒を飲んでも歩いて家に帰れる。教育施設、医療機関、飲食店、スーパーが集結しています。製造業の企業が多く立地しているので、働く場所が確保され、生活するための条件が整っています。冬は雪が降らない恵まれた環境にあるために**住**

みたい田舎ベストランキング1位

本町でも移住支援施策を実施していますが、違うところは、情報発信と関係団体との連携事業の展開、近隣市町村との共同フェアや相談会の開催を行い、空き家を活用した移住体験住宅の運用を実施している。（移住相談ワンストップ窓口の開設）

注目した事業として

Uターン確保事業として若者を対象に会議やツアー等を年間事業として官民一体となり実施している。村単独事業として、Uターン就活事業、保護者向け就職セミナーの開催、ふるさと就業応援金事業の創設等、積極的に事業を実施しています。

また、村営住宅を安く貸して住宅として利用していることは、本町でも取り入れたら有効活用ができると考えられます。

◎ 嬭恋村はキャベツの生産量が日本一

嬭恋村の移住促進は移住コーディネーター（集落支援員）による移住相談対応がほとんどです。どんな相談に乗ってくれるのかは、「交通、気候、地域のコミュニティ、子育て、仕事、公共施設の相談とあらゆる相談に応じます。

別荘が多くあるために集落支援員が手紙を書いて、別荘所有者へ届けている。空き別荘の一部も集落支援員が管理しています。移住相談窓口は交流推進課が行っていますが、役場とは別の建物で仕事をしています。集落支援員も同じく同居していて、土・日曜祝日でも1、2名の方が常時相談に応じます。

空き家対策としては、まずバンクに登録してもらい、移住・定住・二拠点居住を考えている方に紹介する。HPで物件をチェックしてもらい、取扱事業者へ問い合わせをする。（不動産業者4社で取り扱う）個人対応でなく、取扱い業者と契約手続きを行う。

別荘の空き家はアイフルホームと締結していて、約40%の方が定着している。移住関連支援を紹介している。住宅支援では、空き家・空き地バンク購入補助金、住宅改修等助成金、薪ストーブ購入補助金があり、また、元々の集落の暮らし方や冬の季節の過ごし方、雪道で車の運転方法や暖房器具の選び方、どれが良いかの比較の資料が作成してあります。移住・定住してからの生活にかかるお金の比較等もお知らせしています。移住しても安心して暮らせるように、事前告知しているところが参考になりました。外国人の移住の多くは農業に従事していて、窓口は村国際交流協会が担っています。軽井沢まで40分の距離なので、移住者の就業先は、農業とホテル業が主で、他にはテレワークで仕事を行っている方もいます。

子育て支援施策については、婦恋村子育てガイドブックで詳細に事業ごとに紹介しています。特に注目したのは、ベビー用品の購入等に活用できる「子育て応援交付金制度」で、応援ギフト5万円を対象給付します。小・中学生を対象とした新生活準備金制度です。

また、高齢者支援として、乗り合い送迎サービス「チョイソコつまごい」はスクールバスと併用して運行していますので、無料で利用できます。

また、高齢者温泉利用券やお出かけタクシー助成券の発行も行っています。

研修からの考察と提言

本町も子育て支援や移住定住、空き家対策等行っていますが、魅力のある町としての情発信と宣伝媒体の使い方が劣っているのでは、本気だが移住者に伝わっていない。

視点を変えての事業展開をするべきと考える。又、移住者へ空いている町営住宅を改修して提供することもよいと思われる。

移住・定住するためには、衣食住の環境がすべて整っていないと移住してこないのでは、

安心して暮らせる仕組みづくりを整えるのが、喫緊の課題である。

働く場所の確保として、企業誘致を早急に進めるべきである。女性が勤務できる製造業の誘致

以上研修視察してきたことを報告します。

令和6年11月7日

会津美里町議会議長 大竹 惣 様

総務厚生常任委員会委員 洪井 清隆



行政視察研修報告書

総務厚生常任委員会視察研修について、下記のとおり報告します。

記

- 1 視察日程 令和6年10月30日（水）～11月1日（金）
- 2 視察・見学先
 - ◆長野県宮田村
 - ・子育て支援施策
 - ・移住支援施策
 - ◆群馬県嬬恋村
 - ・移住コーディネーターによる移住相談対応
 - ・空家対策
 - ・子育て支援施策
- 3 報告事項
 - ◆長野県宮田村

宮田村は、長野県の南部、上伊那郡の中央に位置し、中央アルプス駒ヶ岳が育む豊かな風上に恵まれ、概ね半径2.5kmの平坦なコンパクトな村である。

 - ・子育て支援施策について、当町とさほど変わりはないが、宮田村輝く子育て応援条例が制定されている。その事業の種類は、次のとおりである。
 - (1) 誕生祝金事業
 - (2) 保育料助成事業
 - (3) 輝く子育て応援事業
 - (4) 子育てファミリー転入奨励事業

- (5) 小中学校入学祝金事業
 - (6) 高等学校入学祝金事業
 - (7) 小中学校通学靴支援事業
 - (8) 小中学校給食費補助事業
 - (9) Dear みやだ フレ フレ ふるさと 18 きっぷ助成事業
- ・移住支援施策については、当町と同様の支援施策を講じているが村とはいえ教育施設は勿論のこと医療機関、飲食店、スーパーが集結し、村内企業は240社以上があり、主に製造業である。又近隣には大きな都市があるため生活環境が整っている。

◆群馬県嬭恋村

嬭恋村は、群馬県の西北部に位置し周囲には浅間山・湯ノ丸山・四阿山・白根山等があり、登山愛好家に親しまれている。浅間山の活発な火山活動により、地質は火山灰土の腐食土壌が多く、高原野菜の適地であることから、有名な夏秋キャベツは勿論、高級野菜花豆、大粒とうもろこし、ジューシーな鎌原きゅうり等多くの特産品がある。気候は夏でも涼しく最適である。近年では別荘地としても脚光を浴びている。

- ・移住コーディネーターによる移住相談対応について、現在、集落支援員4名が移住定住相談員として対応している。相談員は生まれながらに嬭恋村に住み続けている方、移住してきた方がその相談受付を行っている。活動内容は、移住前の相談、空き家バンクの活用等である。
- ・空き家対策については、当町と同様に空き家等の有効活用による村内への定住促進及び住環境の向上を図る目的で住宅支援補助金の制度がある。
- ・子育て支援施策について、U I J ターン就職向けに「地方就職支援金支給制度」を10月1日から実施した。(地方への就活に要した交通費を上限6,000円を支給するもの)

◆おわりに

平田村・嬭恋村は、自然環境に恵まれたコンパクトな村ではあるがその地の利を最大限に活用し、移住支援、子育て支援日本一を目指していることは素晴らしいと感じた。

令和6年11月 15日

会津美里町議会議長 大竹 惣 様

総務厚生常任委員会委員 堤 信 也



行政視察研修報告書

総務厚生常任委員会行政視察研修について、下記のとおり報告します。

記

1. 視察日程 令和6年10月30日(水)～11月1日(金)

2. 視察・見学先 ◆長野県宮田村

・子育て支援施策

・移住支援施策

◆群馬県嬭恋村

・移住コーディネーターによる移住相談対応

・空家対策

・子育て支援策

3. 報告事項

◆長野県宮田村

住みたい田舎ランキング、村の部全国1位はなるべくしてなっている条件が揃っている。
環境が整っているのは財産である。中央アルプスを眺める景観、荒廃農地ゼロに向けた
「宮田方式」による取り組み。そして何よりもコンパクトビレッジ、生活圏半径2.5kmに
凝縮されているまちづくり。村内企業が240社以上で働く場所にも恵まれている、近隣
には名古屋市があり移住には適している状況にある。わが町とは比較にならない環境
にあり、結婚後に家族でUターンしたケースも数組あるのも理解できる。

参考にすべき部分は次元が異なるので厳しいところだが、職員が大手企業との
接点があれば果敢に連絡を取り結果を出しているところは参考にすべきである。
移住したいと思う環境、環境づくりは大事である。

◆群馬県嬭恋村

移住者が、単身移住・若年層の家族連れ・シニア世代と年代に関わらずに多い。
単身移住者については、主にホテル等の観光業への就職や、少数ではあるが農業
実習生(特に外国人)、ホテルなどには数か国からの外国人の方々が就
業している。リモートワークが増え、人込みを避けた若年層の家族連れ
の別荘地への移住が多いことにも驚かされた。シニア世代の別荘地への
移住はある程度納得できる面はある。仕事をリタイヤし、セカンドライ
フを楽しむ目的であれば、2地域居住で別荘地の活用、夏は避暑地、冬は
ウインタースポーツを楽しめる。生活に合わなければ手放すのも可能。
不動産業者が4社あり、別荘地が860世帯相当あれば選択にも幅がある
別荘地であれば、望まなければ地域住民と深く関わることもないようである。
一方、集落への移住者が少なく地域力の低下が懸念される。。条件が整っている
から移住者も増える。マスコミやメディアをどう取り込んでいくかも懸案ではある。
田舎暮らしの本に掲載されたことも影響は大きかったとのことで、話題を提供し興味
を示してもらうツールは大事である。わが町としても農業を利用し外国人実習生を募
るなどの施策、町有地を若者世代に提供し移住を促すなど、官民一体で思い切っ
た施策を早急に構築し対応すべきである。

移住・定住の促進に関する件も急務なことではあるが、結局は移住者を取り

合いする現状で打破するには至らない。年配者は元気だが若い女性が減少

している。様々な対策を講じるが効果はない。年配者が収入を得て楽しく暮らす

環境を整え、次世代に伝承する仕組みを構築し、若者世代に魅力が持てる

施策・環境が必要である。給食費の無償化などの施策も大切ではあるが、施し

ても消滅する可能性がある自治体からの脱却にはならない。人が減る原因は

働く場所にある、働く場の環境整備の充実が必要であり、町単独では限界がある

生活の基盤を整えるためには県・国の支援は不可欠である。以 上

令和6年 11月 14日

会津美里町議会議長 大竹 惣 様

総務厚生常任委員会委員 根本 剛 

行政視察研修報告書

総務厚生常任委員会行政視察研修について、下記のとおり報告します。

記

- 1 視察日程 令和6年10月30日(水)～ 11月1日(金)
- 2 視察・見学先 ◆長野県宮田村
 - ・子育て支援施策
 - ・移住支援施策◆群馬県嬭恋村
 - ・移住コーディネーターによる移住相談対応
 - ・空家対策
 - ・子育て支援施策
- 3 報告事項

1) 宮田村の子育て支援施策、移住支援施策について

まず 出生祝い金(6万から最大50万)から始まり、保育料無料(給食費も)小・中学校においても給食費補助、更には各種お祝い金の支給など手厚い助成が行われており、少子化に歯止めをかける施策、また人口増施策に優先課題として取り組んで来た経過や、食も結び人口減少が微減にとどまっている状況に大変感心させられた。

また、2つの日本アルプスが見える自然景観をもち、地理的、(地政学)的条件もあり、山好きの方も移住している。更には年間に約30万人を超える登山者も訪れ、村を活気付かせる、大きな要素になっている状況はうらやましい限りを感じます。また移住人口増の

取り組み策に 移住セミナーや移住交流地域おこしフェア等、数多く開催し、村の移住相談窓口で全てまかなえる状況で、移住相談ワンストップ窓口の実現に成功した事も大変素晴らしいと感じてくれた。東海地方の欠点、名古屋まで2時間で行けるなど、これも地理的好条件が重なり、村内に多くの製造業等、会社があり移住して来ても、就労の場には事欠かない、大きな根拠となっている。多くの製造業(自動車・精密機器、食品関係等)において自ら技能実習生を受け入れるなど、民間レベルの努力も相成って富田村の外国人の移住が増えている状況を鑑みても、正に地方自治体として最先端をリードしていると言っても過言ではないと痛感せられた。

2) 孺恋村の移住、子育て支援、空き家対策について
孺恋村に移住される要件のオースティンには、民間に開発された「別荘地」が多数あり、その存在が移住者の受け皿の役割を果たしているといふ甚だうらやましい限りであると感じた。時代の流れにより、シニア世代のセカンドライフを楽しむ事も合致している処も多いとか伺いました。また課題として別荘地以外の集落への移住者が少なく、地域住民が減り地域力が低下している現状も「かいま」見え、功罪もあるのだと感じました。

子育て支援策の1つとして、学校給食費の無償化もH28年から実施、R5年度実績として、幼稚園、小、中学合わせて

村負担総額 食料費 546百万円が支出されている。現状においては、やはり財政面でやはり繰りに苦慮してる様相がうかがわれ、学校給食費無償化は各自治体それぞれの壁になっていると感じさせられた。

子育て施策の中でも、スクールバスの運行も無償化で行なっているとの事。感銘を受けたのは、幼稚園、小・中学生の送迎をバス一台でそれぞれ時間差を設けて運行している大変良いアイデアと知り、当町におけるスクールバス運行状況も精査しながら、予算を節約できる可能性を見出し、篠恋村の例を参考、ただ一台として政策民生科として参りたいと存じました。